

メディカル メガバンク通信

MEDICAL MEGABANK NEWSLETTER 2013
1



県立宮古病院派遣 外科医
メガバンク大学院コース 伊藤 千絵



県立久慈病院派遣 外科医
メガバンクフェロー 吉田 宗平

**いわて東北メディカル・メガバンク機構
本年9月本格始動に向けて活動開始！！**

いわて東北メディカル・メガバンク機構は、医療と被災地域を「健康」という絆で結ぶことを目的とし発足しました。健康調査の実施を通じて、地域医療を充実させ、医療によってつながるコミュニティづくりをサポートし、明るい未来の医療をめざします。

いわての 医療復興を 目指して

Interview



sohei yoshida
メガバンクフェロー
外科医 吉田 宗平

1984年生まれ。岩手県盛岡市出身。岩手医科大学医学部卒業。研修医時代より、県立久慈病院に勤務。今年4月、フェローとして新たに久慈病院に着任。

Q 研修医時代から通算すると、久慈病院勤務は3年目になりますよね。もうバリバリ仕事していらっしゃるのではないですか？

バリバリです(笑)。研修医の指導もやっているのですが、教えることの難しさを実感しています。盛岡に帰ってくるのは月1回くらいで、ほとんど久慈にいます。久慈市にも病院にもすっかり愛着がありますね。

Q 久慈病院に赴任されたのは、震災から間もない同年4月1日だったと伺いましたが、震災の時はどちらに？

震災があった日は、岩手医大の卒業式の翌日でした。盛岡で引越しの準備をしていた時に被災しました。

Q 余震もまだまだ多かったと思いますし、大混乱の中の赴任だったと思います。そんな中、新たな環境でドクターとしての第一歩が始まった。当時はいかがでしたか？

被災した患者さんも多く来院しましたし、同時に医師として覚えなければならぬこともたくさんあり、赴任当初は本当に混乱していました。自分の頭の中でも整理できなくて。

Q もともと働いていた久慈病院に、今度は新たにメガバンクフェローとしての赴任ですよね。フェローに応募した理由を教えてください。

研修医のスタートが被災直後の状態からというのもあって、患者さんの精神ケアや身体ケアをすることが通常より多い状態でした。そういう2年間の研修医を終えて、新たに、ひとりの医師として、被災地や被災者のケアに引き続き携わりたいと思います。

Q 被災地で医療を実践して、現場で気づいたことはありますか？

全体的にストレスがかなり強い環境だと思っています。それは患者さんもそうだし、医療従事者にとっても同じことが言えます。PTSD(心的外傷後ストレス障害)や精神疾患になる患者さんも多いです。また、ストレスが脳梗塞や心筋梗塞の要因になるということは知っていましたが、被災や身内の不幸、また仮設住宅での生活等、多大なストレスがかかる環境の中では、その発症とより一層結びつきが強いと実感しています。



震災時、医療スタッフは「自分たちがやるしかない」という責任感や使命感で、自らモチベーションを保っているという感じだったと話す吉田先生。

Q メガバンクフェローとして、この事業に携わっていくことをどのように考えていらっしゃいますか？

フェローとして沿岸で働く理由は、キャリアというよりは、自分の責任というか、もうすこし被災地医療に携わって行きたいという思いからです。その中でいろいろの研究や分析をして、その結果を今後の治療に活かしていきたい。このメガバンクフェローの経験を経験に、今後、外科医として、医師人生を歩んでいきたいです。

Q 被災地のみならず、健康に生活できるためには、どのようなことに気をつけたいと思いますか？

市町村単位や病院ごとに健康相談等はやっていますが、実際は、受診率に差があります。健康を気にする人は毎年検査を受けていますが、一方でまったく興味がない人もいます。だから、メガバンク事業のように国のプロジェクトとして大々的に健康調査をするということは有難いことで、是非沿岸のみならず、これを機に健康診断を受けてほしいと思います。



明るい未来へ、「健康」をつなぐために、みなさまのご理解とご協力をよろしくお願いします。



調印式を実施しました
東北大学と協力協定を締結

2013年5月1日(水)、岩手医科大学と東北大学は、東北メディカル・メガバンク計画の事業推進に関する協力協定を締結しました。同日、東北大学片平キャンパスにて調印式が行われ、学校法人岩手医科大学小川彰理事長と国立大学法人東北大学里見進総長が連携協力に関する協定書に署名しました。

東北メディカル・メガバンク計画は、東日本大震災・大津波からの復興プロジェクトとして、文部科学省内に推進本部が設けられ、岩手県での調査を岩手医科大学、宮城県を東北大学がそれぞれ担当しています。

両大学はそれぞれに機構を設置し、被災地における医療の再生と医療機関の復興を目指し、活動を始めています。



▲岩手医大 小川理事長(右)、東北大学 里見総長(左)

ご挨拶

いわて東北メディカル・メガバンク機構
 機構長 祖父江 憲治

岩手県の沿岸地域は従来より医療過疎に悩んできました。さらに「東日本大震災・大津波」は医療を取り巻く環境にも甚大な影響を及ぼし、医療体制は未だ回復に及んでおりません。

現在は、本学と岩手県医師会、さらに全国各地の医療スタッフの御協力を仰ぎながら、地域の皆様の健康保全に努めているところであります。しかし、いずれは岩手県民の力で自立し、医療の復興を遂げなければなりません。未来に向け、確かな健康保全が図られる基盤づくりが今、求められております。

この度、本学はその一助となるべく、国の復興事業である東北メディカル・メガバンク計画に参画し、「いわて東北メディカル・メガバンク機構」を立ち上げました。各種医療支援活動を、地域、行政、関係機関、東北大学、災害関連復興事業と連携し行うことで、「こころと身体の健康保全」に立ち向かい、健康意識の向上と地域医療に貢献し、地域の人材育成と雇用の創出につなげることが第一の

目的であると考えております。また、その過程で御提供頂いた生体情報を管理(バイオバンク)・解析することで、次世代の個別化医療を実現することを目指しております。

本事業の実現にあたりましては、地域住民の皆様の御協力、また、岩手県、各市町村、保健医療関係者、岩手県医師会など関係各方面の御支援が必要であります。岩手県における「地域の創造的復興」へ向けて、皆様のお力添えのほど何卒よろしくお願い申し上げます。

岩手医科大学のある岩手医科大学矢巾キャンパス。コホート調査、解析研究の拠点です。



祖父江機構長▶

発足記念シンポジウム

「いわて健康づくりの集い」



▲岩手医大矢巾キャンパスの大堀記念講堂で開催されたシンポジウム。開会冒頭で被災された方々を悼み、黙祷をささげました。

2013年2月2日(土)、機構の発足を記念し、シンポジウム「いわて健康づくりの集い」が開催されました。

シンポジウムは、機構本部のある岩手医科大学内の大堀記念講堂にて行われ、沿岸地区をはじめ、県内、県外から約400名の参加者が集いました。

当日は、九州大学 清原教授、京都大学 松田教授による基調講演のほか、続いて行われたパネルディスカッションでは、山本宮古市長、遠藤釜石病院院長、鈴木岩手看護短大教授らが、当事業に期待することをテーマに語り合いました。寒い中、たくさんの方にご来場いただき、誠にありがとうございました。

いわて東北メディカル・メガバンク機構 活動のご報告

- 2011年
 - 3月 東日本大震災・大津波発災
- 2012年
 - 4月 文部科学省で東北メディカル・メガバンク計画検討会が始まる。
 - 7月 岩手医科大学に「いわて東北メディカル・メガバンク機構」設置。
 - 9月 久慈市長、宮古市長、洋野町長、田野畑村長、普代村長、野田村長、岩泉町長、山田町長を祖父江機構長が訪問。
 - 10月 大船渡市長、陸前高田市長、住田町長を祖父江機構長が訪問。
 - 11月 釜石市長、遠野市長を祖父江機構長が訪問。
 - 12月 東北大学の先生方が沿岸視察。
- 2013年
 - 1月 一関市長、大槌町長を祖父江機構長が訪問。
 - 2月 機構発足記念シンポジウム「いわて健康づくりの集い」開催。
 - 4月 二戸副市長、一戸町長、軽米町長、九戸村長を祖父江機構長が訪問。
 - 5月 東北大学と協定締結。
 - 7月 パイロット調査開始。
 - 9月 本格調査スタート。

メガバンク事業を支えるスタッフ vol.1

① メディカル・メガバンクフェロー

岩手沿岸の基幹病院(県立久慈、宮古、釜石、大船渡病院)の何れかに常勤として6か月以上勤務し、その後、基幹病院勤務期間の2倍の期間、岩手医大に設置する「いわて東北メディカル・メガバンク機構」内でゲノムコホート研究やエピゲノム等の関連研究に従事します。現在7名のメガバンクフェローが各沿岸基幹病院に派遣されています。

② メガバンク大学院コース

初期2年間は岩手沿岸の基幹病院(県立久慈、宮古、釜石、大船渡)に勤務し、研修・診療に従事します。派遣先では2年間遠隔講義等の受講を可能にし、ゲノムコホートリクルート活動補助等に従事。4年の履修期間の後期2年間は、リサーチアシスタントとしてメガバンク機構に採用し、主にゲノムコホート研究、ゲノム・エピゲノム・生体情報解析研究に従事します。



◀祖父江機構長より、メガバンクフェロー認定式にて、認定証が授与されました。今後数回にわたり、フェローを紹介していきます。



◀表紙に登場している伊藤先生。震災時は釜石病院に勤務しており、当時の様子や現在宮古病院で被災地医療に臨む気持ち etc. をじっくり語ってくれました。

フェロー 吉田先生(県立久慈病院派遣中)のインタビューは裏面へ!

coming soon!
 伊藤先生(県立宮古病院派遣中)のインタビューは次号で掲載予定!

「コホート調査」ってなに??

「コホート調査」とは、たくさんの個人の生活習慣(食生活、飲酒、タバコなど)を含む環境要因を調べ、さらに長期にわたり追跡をすることで、その後の病気の発症との関連を調べる研究のことです。

当機構の「地域住民コホート調査」では、未曾有の震災ストレスによる健康への影響や、どのような人がどのような環境でどんな病気になりやすいかを調べます。生活習慣や食事に関する調査と、血液や尿を用いて遺伝子の型などの組み合わせと病気の関連性を調べることで、病気の正確な診断や、将来かかりやすい病気を予測し、予防法や治療法の開発をめざします。

